

宮城県福祉サービス第三者評価結果

1 第三者評価機関名

株式会社福祉工房

2 施設・事業所情報

名称：東北大学青葉山みどり保育園	種別：保育所（企業主導型保育所）
代表者氏名：富沢 ゆかり	定員（利用人数）：75名
所在地：宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉468-1	
TEL：022-399-7382	ホームページ： http://www.bureau.tohoku.ac.jp/somu/hoiku/midori/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 平成 30年 4月 1日	
経営法人・設置主体（法人名等）： 国立大学法人 東北大学 （運営委託先：アートチャイルドケア株式会社）	
職員数	常勤職員： 13名 非常勤職員 12名
専門職員	施設長 1名 保育士 5名
	主任保育士 1名 看護師 1名
	保育士 10名 栄養士 4名
	栄養士 1名 保育補助 2名
施設・設備の概要	各保育室(6室) 遊戯室 調乳室 木浴室 調理室 トイレ(幼児用・多目的) 医務室(事務室兼用) 屋上園庭(砂場) *冷暖房・床暖房完備

3 理念・基本方針

保育理念：～「自分らしく」生きていくことのできる子どもを～
子どもの全人格を尊重し、子どもたちが本来持っている「生きる力」を育み、
何を学ぶかよりも、どう学ぶかを考えられる子どもを育てたい

保育目標：・睡眠と生活リズムを整える事を目指して保育を展開していきます
・一人一人の個性と成長に応じた保育を展開していきます
・子どもの「失敗」を受け止める保育を展開していきます

4 施設・事業所の特徴的な取組

東北大学の教職員、学生のニーズに合わせた企業主導型保育園として開園し2年目を迎えました。海外のお子さまのお預かりも多く、園内では英語はもちろん、ベトナム語や中国語など様々な母国語が飛び交い、それぞれの国の文化を尊重し楽しい保育園生活を送れるインターナショナルな保育園です。また、自然環境に恵まれており、屋上園庭のほか、大学の広大な敷地内で思う存分活動ができます。敷地内では小動物や草花の観察や採集、探索活動、野菜の栽培に水遊びまた冬には雪遊びなど、季節の移り変わりを体全体で感じながら、毎日の元気いっぱい戸外活動を楽しんでいます。

戸外活動を通して丈夫な体作りを目指し、遊びの中では約束やルール、危険認識を学び豊かな感性や表現力を育み、主体性のある子どもに成長できるよう保育を提供してします。

第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和2年1月14日（契約日）～令和2年3月31日（評価結果確定日）
--------	-----------------------------------

受審回数（前回の受審時期）	0回（平成 年度）
---------------	-----------

5 総評

◇特に評価の高い点

○恵まれた保育環境

企業主導型保育所として園そのものは大学の福利厚生施設の3階に位置し、園庭もビルの屋上に砂場が設けられ、やや手狭と思える園内ではあるが、建屋の前面には大学の広大な、よく整備された広場があり、自動車等を気にせずに利用でき、子供たちはほぼ毎日のように、この広場に出かけ、自然とのふれあいや、探索活動、子供同士の新たな遊びの発見や、創作等思い思いの活動が行われるなど、子供たちの発育にとって非常に恵まれた環境となっている。

○子供一人一人に対応した保育

企業主導型保育事業ということもあり、大学の勤務形態に対応した保育環境が求められており、早朝から夜間までの長時間の通常保育が行われている。各家庭での生活環境の差により、朝食時間などの差が大きく、これに対応し、園では昼食時間を区分し、子供たちの状況に対応した昼食などの提供が行われている。又、海外の子供たちの保育も行われ、それぞれの地域の習慣や異文化に対応した保育が行われるなど、子供たちの状況に応じた、又、個性を尊重する保育が徹底されている。

◇改善を求められる点

○保護者とのコミュニケーション（相談体制）

保護者からのアンケートからは、園からの情報が十分には届いていない様子がうかがえる。園としての保護者に対する発信は行われているものの、それらが保護者にとっては十分に理解できるものとはなっておらず、保護者に対する、情報の提供方法の検討や、相談体制に関して見直していくことが望まれる。

○地域との連携

特殊な地域環境でもあり、一般的な地区とは異なる環境にあり、大学及び周辺の学校を地域ととらえ、これらの施設と連携として、学生や教職員との関係や育児相談などのニーズ調査、及び実施、ボランティアの受け入れ等の検討を事業主でもある大学と検討していくことが望まれる。

○中期的運営計画

現状では中・長期計画の策定はされていない。園における現状の課題や、理念、保育方針などを達成していくために、中期的な園としての取り組みを計画的に行っていくことが望まれ、そのためにも中・長期計画の策定を行っていくことが望まれる。

6 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

初めての第三者評価で、外部の方に評価されるという事がどのような事なのかと不安を抱きつつ、当日保育面、運営面のヒヤリングを受けました。一つ一つ丁寧に説明をしていただき、ヒヤリングを受ける中で、園の方向性や改善点などが明確になりました。また、アンケート結果から保護者の方々の思いや意見を聞き、現在までの発信方法を見直し、様々な視点や方法で保護者の皆さまに明確に伝わる発信の仕方を工夫していきます。地域と連携については、特殊な地域環境であることも踏まえ、設置者の大学側と協議、相談し、協力を得て検討していきたいと思えます。

今回の指摘事項やアドバイスを真摯に受け止め、改善に向け計画的に進めていき、更に質の良い保育を目指し取り組んでまいります。

7 各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙のとおり（施設の区分に応じ福祉サービス第三者評価結果票を添付する。）（様式2－第三者評価機関公表用）

(別紙)

福祉サービス第三者評価結果票

【保育所版】

東北大学青葉山みどり保育園

(運営委託先：アートチャイルドケア株式会社)

※ すべての評価項目（65項目）について、判断基準（a・b・cの3段階）に基づいた評価結果を表示する。

※ 評価項目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する。

評価対象 I 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
1	I-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	Ⓐ b・c
＜コメント＞ 理念、基本方針はパンフレット、事業計画、入園のしおり、ホームページ等に記載され、保護者には入園時や保護者会での説明が行われている。又、職員は更衣室に理念を掲載し、始業時に唱和を行い、理念や保育方針を確認し業務についている。		

I-2 経営状況の把握

		第三者評価結果
I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
2	I-2-(1)-① 事業経営を取り巻く環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	Ⓐ b・c
＜コメント＞ 法人の会議等で社会全体の情報を入手し、又、事業主である東北大学における利用者の情報に関しては大学の総務課と打ち合わせを行い、情報を得て、職員会議等で情報を共有している。		
3	I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a Ⓑ c
＜コメント＞ 運営に関する課題は認識され、リーダー会議等で対応に関しての話し合いがされている。更に、課題に関して事業計画などへ記載し、職員と共有し改善へ取り組んでいくことも期待される。		

I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
4	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a・b・c
<コメント> 現状、中・長期計画の策定はされていない。理念や保育目標達成のための中・長期的な取り組みを策定し、具体的な活動をしていくことが望まれる。		
5	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a・b・c
<コメント> 中・長期に掲げた取り組みをもとに、当年度実施していく取り組みを具体的に事業計画に織り込んで実行していくことが望まれる。		
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
6	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a・b・c
<コメント> 設置2年目でもあり、今年度の事業計画は園長と主任で策定し、職員会議で各職員への配布・説明が行われた。来年度は期末に今年度の事業計画に対する反省を踏まえ、クラス会議等で職員による話し合いのうえ、作成される予定となっている。		
7	I-3-(2)-② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a・b・c
<コメント> 事業計画のうち、必要な部分を抜粋し、別途資料を作成の上、保護者会等で保護者への配布説明が行われている。更に、事業計画書等は園内にファイルし、日常より保護者が閲覧できるようにしておくことも期待される。		

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
8	I-4-(1)-① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a・b・c
<コメント> 毎年の保護者へのCSアンケートの実施、職員による園の評価などが行われ、保育の質に関する課題の把握が行われ、得られた結果は職員会議で話し合われ改善に結びつけている。又、定期的な第三者評価の受審も予定されるなど、質の向上への取り組みは積極的に行われている。		
9	I-4-(1)-② 評価結果に基づき保育所として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a・b・c
<コメント> 自己評価等から得られた課題は職員会議などで話し合いが行われ、改善へと結びつけている。更に、課題や改善への取り組みなど議事録とは別に記録しておくことも期待される。		

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
10	Ⅱ-1-(1)-①施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>入園のしおり等に園長や職員の役割等が記載され、毎年、職員や保護者に対し年度における園長としての取り組みを話している。更に、事業計画書や広報誌に園長としての取り組みなどを記載し、職員への周知をさらに進めていくことも期待される。</p>		
11	Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a ・b・c
<p><コメント></p> <p>法人及び行政における研修会に出席しコンプライアンスに関する情報を適宜得て、園内で職員への伝達研修が行われ、職員からはレポートの提出を行ってもらう等、コンプライアンスに関する理解を深める取り組みが行われている。</p>		
Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
12	Ⅱ-1-(2)-① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a ・b・c
<p><コメント></p> <p>職員の目標管理に関しての進捗状況の確認の為、毎月の面談を行い、アドバイスや指導を行い、又、年間の研修計画の立案と園内研修での講師、実際の保育の現場での確認、指導などにより、園における保育の質の向上に努めている。</p>		
13	Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>園における業務の役割を、より効率的に行えるように職員の分担を決め、必要に応じて調整が行われている。又、職員会議や面談で職員から業務に関する改善提案を受け、より効率的運営を目指す取り組みが行われている。更に、日常より職員から、より積極的に改善に対する意見を吸い上げる仕組みを検討することも期待される。</p>		

Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a ・b・c
<p><コメント></p> <p>「アートチャイルドケアの誓い」に目指すべき職員像がうたわれ、翌年度の子どもの保育人数の見込みにともない、職員の確保が法人内で行われ、又、毎月行われる面談でも職員からの相談に応じるなど定着に向けた取り組みが行われている。又、必要に応じて法人内での異動が行われ、職員の過不足が起きないような仕組みが作られている。</p>		

15	Ⅱ-2-(1)-②総合的な人事管理が行われている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>年二回の人事考課が行われている。職員の目標管理などをもとに、主任、園長による面談と一次考課、法人での最終考課が行われ、結果は給与や賞与への反映が行われている。また、最終結果は、それぞれの職員へ園長からのフィードバックが行われている。</p>		
Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
16	Ⅱ-2-(2)-①職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>職員の就業状況は園長により日常管理され、職員の家族や家庭の状況に応じて、時短制度やマタニティ有休などの制度が設けられている。又、法人の福利厚生制度に基づく施設の優待などが受けられる仕組みとなっている。</p>		
Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
17	Ⅱ-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>職員一人一人は年間の目標を提出し、毎月これに対しての面談が行われ、進捗の状況確認が行われており、必要に応じてアドバイスや指導が行われ、年二回の人事考課時には自身の保育に関しての自己評価が行われ、自らの保育に関しての反省が行われている。</p>		
18	Ⅱ-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>年間での研修計画が策定され、園内研修、行政による研修、外部研修等、園において必用とされる研修が計画され、実施されている。</p>		
19	Ⅱ-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>職員一人ひとりの研修記録が作成され、行政による研修や外部研修では、記録に基づき必要とされる研修の受講が指示されている。又、外部研修は職員全員に紹介され、希望により外部研修等の受講が行われている。</p>		
Ⅱ-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
20	Ⅱ-2-(4)-① 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>実習生受入れマニュアルは策定されており、今年度は8名の受け入れが行われている。大学からの委託保育園ということもあり、保育士としての実習ではなく看護師育成の実習となっており、実習プログラムは学校側のプログラムによっている。</p>		

II-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
21	II-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	Ⓐ・b・c
<コメント> ホームページに園の内容や保育状況が紹介され、大学には園の紹介パンフレットが置かれている。毎年実施されているCS調査に基づく意見や改善内容は園内に掲載され、苦情に関するも承諾されるものについては掲載を行う予定となっている。		
22	II-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	Ⓐ・b・c
<コメント> 園の事務処理等は大学および法人の規定に従い行われており、法人などから毎年、業務監査が行われている。		

II-4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果
II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	II-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a・Ⓑ・c
<コメント> 企業主導型保育所となっており、地域枠としての受け入れも隣接する他の学校からの受け入れのみで、又、周辺は全て大学等の敷地であり、一般の民家は無いという特殊な地域となっている。その中で、子どもとは現在大学の一部学生サークル等と、ハロウィンに交流が行われお菓子のやり取りが行われるなどの活動が行われている。子供たちと地域社会とのふれあいの意味からも、今後、学生や教職員とどのような関係を作れるか、大学も交えて検討していくことが望まれる。		
24	II-4-(1)-② ボランティア等の受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a・Ⓑ・c
<コメント> 特殊な立地条件での保育所でもあり、地域のボランティアの受け入れ実績は現状ではない。保育見学として、今年度は保育士養成学校の生徒10名ほどの受け入れが行われている。今後、学生サークルや保護者を通じた地域サークル等の交流を通じて検討していくことも期待される。		

Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		
25	Ⅱ-4-(2)-① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a・b・c
<コメント> 警察や消防、保育所、児童相談所とは日常における定期的打ち合わせの場は無いが、必要に応じて連携できる関係作りは行われている。		
Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
26	Ⅱ-4-(3)-① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a・b・c
<コメント> 特殊な立地状況でもあり、教職員や、学生の保育に関するニーズを大学と共に検討していくことが望まれる。		
27	Ⅱ-4-(3)-② 地域の福祉ニーズに基づく公益的な事業・活動が行われている。	a・b・c
<コメント> ニーズ調査に基づき、育児相談などの取り組みを行っていくことも期待される。		

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施 Ⅲ-1

利用者本位の福祉サービス

		第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
28	Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a・b・c
子供の尊重をうたった理念、保育目標が策定され、職員は始業時に更衣室に貼られた理念を見て、唱和し理念や方針を再確認しながら、当日の勤務についている。又、研修時にも最初に唱和し、保育支援の精神を確認している。		
29	Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	a・b・c
<コメント> 「アートチャイルドケアの誓い」においても子供の権利を擁護する精神がうたわれ、設備に関しても、尊厳を確保する配慮がなされている。又、習慣の違う海外からの子供に対しても、それぞれの習慣を尊重した取り組みが行われている。さらに、業務手順書にもプライバシー確保に関する面をより反映していくことも望まれる。		

Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
30	Ⅲ-1-(2)-①利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>企業主導型保育のため、事業主である大学の総務課に、入園のしおりが置かれ、入園希望者への配布説明がされている。入園のしおりに、園における保育の内容が詳細に記載され、園においても園長、主任による説明が行われている。又、希望者には事前に園内の見学も行われている。</p>		
31	Ⅲ-1-(2)-② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a・Ⓑ・c
<p><コメント></p> <p>入園のしおりに兼重要事項説明書により詳細な説明が行われて、同意書への署名も行われている。重要事項説明書への署名は説明した書類への署名であることも望まれる。</p>		
32	Ⅲ-1-(2)-③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>法人内の系列の園への転園に関しては、書類等での引継ぎが行われ、小学校への入学に関しては連絡会での引継ぎが行われている。他園への転出の場合は口頭による引継ぎとなっている。</p>		
Ⅲ-1-(3) 利用者満足の上昇に努めている。		
33	Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の上昇を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>日常の保育における、子供たちの様子をもとに、月に一度職員会議で「お子様カンファレンス」として子供たちの様子を話し合い、改善点などの取り組みを決めている。又、毎朝の朝礼で担当者は気になる点を報告し、子供の情報を共有している。又、毎年法人から保護者に対し、CSアンケートが行われ、園ではアンケートに対する改善点等の話し合いが行われ、対応した取り組みに関しては結果を広報誌などに公表している。</p>		
Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>対応体制はフローチャート化され玄関に掲示され、また、入園のしおりにも対応体制が明記されている。現在までのところ苦情の受付は1件も発生していない。</p>		
35	Ⅲ-1-(4)-② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a・Ⓑ・c
<p><コメント></p> <p>相談窓口や体制に関しても、入園のしおりに明記されているが、苦情対応体制と混同しており、区分して記載しておくことや、意見箱の設置や、相談場所の確保などについても検討していく事が望まれる。</p>		

36	Ⅲ-1-(4)-③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>受けた相談に関しては、園長への報告が行われ、回答できるものについてはすぐに回答し、内容によっては法人もしくは事業主である大学と相談し回答をしている。内容については朝礼等で他の職員と情報を共有している。</p>		
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>発生したヒヤリハットは、その場で職員が所定の用紙に記入し、朝礼での報告と職員間での共有が行われ、月間での集計をもとに対応策を検討し事故防止に努めている。さらに、改善策は適宜業務手順書などへの反映を行っていく事も望まれる。</p>		
38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>感染症対策マニュアルは準備され、大学病院の職員による研修が行われている。又、発生時には状況を掲示し、保護者への注意を呼び掛けている。</p>		
39	Ⅲ-1-(5)-③災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>危機管理マニュアルが策定され、毎月の訓練と、建物内の他の事業者との合同訓練が行われている。地震や火災への対応を主として、建屋前面にある大学の広場を一時避難場所として、園がある3階からは、らせん滑り台を利用し避難できるように設備されている。</p>		

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
40	Ⅲ-2-(1)-① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>園における業務手順書が作成されており、職員にはこれをもとにした研修が行われ、また年一度チェックシートを用いて確認も行われている。さらに内容にプライバシー保護に関する事項などを明確に加えていく事が望まれる。</p>		
41	Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>設置2年目でもあり、現状での見直しは行われていないが、今後は内容に関して職員会議で話し合いを行い、必要に応じた見直しを行っていく事としている。</p>		

Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
42	Ⅲ-2-(2)-① アセスメントに基づく指導計画を適切に策定している。	Ⓐ・b・c
<コメント> 発達記録としてそれぞれの子供たちの、状況を統一した様式をもって確認し、また保育日誌や個別の子供たちの状況を記載した日課表をもとに、それぞれの子供たちの指導計画を作成している。		
43	Ⅲ-2-(2)-② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	Ⓐ・b・c
<コメント> 子供たち全員の毎日の記録としての日課表、および、～2歳児の毎月の個別記録、3歳～の年4回の個別記録をもとに職員会議で評価検討が行われている。		
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		
44	Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	Ⓐ・b・c
<コメント> 子供たち全員の毎日の記録としての日課表、0～2歳児の毎月の個別記録、3歳以上児の3か月に一度の個別記録が行われ、発達状況等が記載されている。		
45	Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a Ⓑ・c
<コメント> 個人情報保護に関する規定が策定され、職員に対する研修も行われている。子供に関する記録は事務所内のカギのかかるキャビネットに保管され、園長が保管責任者となり、不在の時は主任が代行している。鍵の管理や、書類の出し入れ等についても業務手順書等に加えていく事も望まれる。		

評価対象A 福祉サービスの内容

A-1 保育内容

		第三者評価結果
A-1-(1) 保育課程の編成		
46	A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	Ⓐ・b・c
<コメント> 法人からの資料を参考に、園長と主任が素案をクラス担任の意見をいれて作成し、職員会議で検討を加え作成している。又、作成された全体的な計画はクラスごとに每期、年度末に見直しが行われている。		

A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
47	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>新築のきれいな園内であり、窓からの見晴らしも良く、落ち着いて過ごせる場となっている。昼寝用の布団は園で用意され、教室は床暖房が設備され安心で、快適に過ごせる環境が作られている。</p>		
48	A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>発達記録に基づき一人一人に対応した計画の策定や、実際の保育が行われている。子供一人ひとりの個性を尊重した保育や外国の子供に対しても、習慣の違いなどにも考慮した対応が行われている。</p>		
49	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>保護者と連携し、家庭の状況も考慮しながら、年齢に応じた保育を行っている。食事時間も、子供の家庭環境に応じた配慮が行われている。又、園では睡眠のとり方（眠育）にも力を入れ、睡眠を通じた良好な生活習慣を身につける取り組みが行われている。</p>		
50	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>園はビルの3階にあり、園庭は屋上を利用し砂場も屋上に用意されているが、園の建屋の前には広大な大学のよく整備された広場があり、自動車などを心配せずにいつでも利用でき、自然とのふれ合い、子供たちだけの探索活動、子供たち自身による遊びの工夫、友達同士の協同作業等、環境を利用し遊びを通して成長していける取り組みが行われている。</p>		
51	A-1-(2)-⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>0歳児を二クラスに分け、月齢ごとに対応した遊びやかかわりが行われている。家庭との連携を密にし、離乳食の相談やレシピの提供なども行っている。</p>		
52	A-1-(2)-⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>建物前の広場で、自然あふれる環境の中で、子供たち同士の探索活動や運動が行われている、子供たち同士の争いには、見守りを主に、危険がない限り子供たち自身による解決を目指している。</p>		

53	A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開がされるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>3～5歳時は10人と人数が少ないこともあり、合同での保育が行われている。異年齢の保育の中でそれぞれの役割を持たせ、また保育方針に掲げた子供たち主体の保育が行われている。</p>		
54	A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>現状では受け入れは行われていない。(対象外)</p>		
55	A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>通常保育が19時、延長保育が19時から22時までとなっている。職員は二交代制で対応している。補食は18時半ころに提供され、延長保育は厨房と事務所に近い部屋での保育が行われ、日課表や引継簿での引継ぎが行われている。</p>		
56	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>今年度2名の児童が小学校への入学が予定され、担当保育士による保育所保育児童要録が作成され、小学校との連絡会へ出席し、連携が図られている。</p>		
A-1-(3) 健康管理		
57	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>登園時での観察や、保護者からの情報をもとに、子どもの状態に注意が図られている。SIDSへの対応として、0歳児は5分に一度、1、2歳児は10分に一度、3歳以上児は15分に一度の確認が行われている。</p>		
58	A-1-(3)-②健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>内科医による年2回の健康診断、歯科医による年1回の歯科検診が行われ、結果を保護者と共有し保育に反映している。</p>		
59	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け、適切な対応を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>入園前に保護者より話を聞き対応を確認、トレイおよび食器を色で区分し、提供する順番、場所の区分を行い、さらにラップに名前を記入し、出す際に再度確認が行われるなどの注意が払われている。</p>		

A-1-(4) 食事		
60	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	Ⓐ・b・c
<コメント> ひな祭りなどの行事食はその行事に合わせた料理の提供、誕生会時には手作りのおやつ の提供、また食育としてシイタケやミニトマトの栽培等を子供と一緒に 行い食物に対する興味を持たせる取り組みが行われている。		
61	A-1-(4)-②子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	Ⓐ・b・c
<コメント> 栄養士が子供たちの食事の状況を定期的に確認、残食簿で毎日の提供量と残食を確認し、調理方法やメニューに反映している。メニューは法人で一括して作成しているが、全国の法人における地域の名物食をメニューに取り入れるなど食事を通じて地域の特色を学ばせるなどの取り組みが行われている。		

A-2 子育て支援

		第三者評価結果
A-2-(1) 家庭との緊密な連携		
62	A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	Ⓐ・b・c
<コメント> 連絡帳や毎年の保護者会、年2回のクラス懇談会やイベントで保護者とのコミュニケーションが図られている。又、誕生会には子供が誕生を迎える保護者も一緒に参加して、一緒に誕生を祝うなどの取り組みも行われている。又、保護者には園での食事のレシピなども提供されるなど家庭への支援も行われている。		
A-2-(2) 保護者等の支援		
63	A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a・Ⓑ・c
<コメント> 子供の送迎時や連絡帳、懇談会、イベントでの会話などを通じて保護者と連携が行われている。保護者からのアンケートからは園とのより活発なコミュニケーションを望む声がかがえ、より気楽に話ができる環境作りも検討していく事が期待される。		
64	A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	Ⓐ・b・c
<コメント> 園内における研修が行われ、職員にも理解を促す取り組みが行われている。子供のおむつ替えの時や、様子を観察し異常が見られる場合の対応がとられるようになっている。又、児童相談所とは必要に応じて相談できる関係が作られている。		

A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果
A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）		
65	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返りを行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	Ⓐ b・c
<p><コメント></p> <p>職員は年度の初めに目標設定を行い、毎月目標に対しての進捗に対しての自己評価および上司との面談が行われ、指導やアドバイスを受ける仕組みとなっている。又、年度末には職員による園としての評価や、半期に一度の人事考課時における職員によるチェックシートを用いた保育に関する自己評価が行われている。評価は必要に応じて職員会議等で話し合わせ、園としての保育の質の改善に結びつけている。</p>		